

日本語ボランティアのための パワーアップ BOOK

—問題解決能力とクラス形式の活動方法—

兵庫日本語ボランティアネットワーク

協力団体

(公財)兵庫県国際交流協会

(公財)神戸市国際協力交流センター

平成 28 年度文化庁委託事業「生活者としての外国人」のための日本語教育事業【プログラム A】

はじめに

この教材は、日本語教室に関わっている方々に、「自分で考えて行動するボランティア」になってほしいと思い作成しました。

はじめて日本語学習支援に関わったとき「私は何をすればいいの？」と戸惑ったり、支援を進めていくうち、「本当に学習者の役に立っているの？」と不安になったり、さらに、「この先、ボランティアとして、どんなことを学ばいいの？」と迷ったりすることがあると思います。日本語教室の一員になった時からそこを離れる日まで、様々な疑問や迷いが尽きることなく浮上してくることでしょう。

「それらを簡単に解決する魔法の方法！」は、残念ながらありません。

でも、自分でしっかり考えて、周りの人の力をうまく借りることができれば、問題は少しずつ減っていくと思いませんか。

この教材は、過去の自分を振り返りながら、今の自分を知り、未来の自分に向かうための道筋を作る練習ができるように作りました。一言で言うと、考える練習をする教材です。

この教材にはテーマが5つあり、大きく3つの部分から構成されています。1つ目はテーマ1で、自分や仲間について知ることが目的です。2つ目はテーマ2からテーマ4です。みなさんが参加する実際の日本語教室に焦点を当てています。自分自身の話し方という限定された範囲から、自分の活動、日本語教室という場へと、その範囲を少しずつ広げていきます。最後はテーマ5で、この教材を使って学んだことを振り返り、これからの自分を考える機会となっています。

1人で自分のペースに合わせて進めてもいいですし、教室の仲間と意見を交換しながら進めてもいいと思います。1ページずつ記入して考える練習をしていくことで、将来なりたい自分になるためには、何をプラスすればいいのか、それはどうすれば手に入れられるのかがわかってくるはずです。

この教材が、みなさんの肩の荷を少しでも軽くし、またみなさんがなりたい自分に近づくお手伝いができれば、これほど私たちにとってうれしいことはありません。

作成メンバー 一同

— 目次 —

はじめに	i
テーマ1 自分を知ろう・仲間を知ろう	1
活動1 自分について振り返って考えよう	1
活動2 仲間について知ろう	3
テーマ2 教室活動について考えよう	6
活動3 話し方について考えよう	6
活動4 自分の話し方を振り返ってみよう	11
活動5 学習者が1人でできることとできないことを考えよう	13
活動6 アクティブラーニングに挑戦しよう	16
テーマ3 自分の活動を改善しよう	21
活動7 自分の活動を振り返ろう	21
テーマ4 場作りについて考えよう	25
活動8 理想的な日本語教室を考えてみよう	25
テーマ5 これからの私を想像しよう	32
活動9 これまでを振り返り、これからについて考えてみよう	32

テーマ1 自分を知ろう・仲間を知ろう

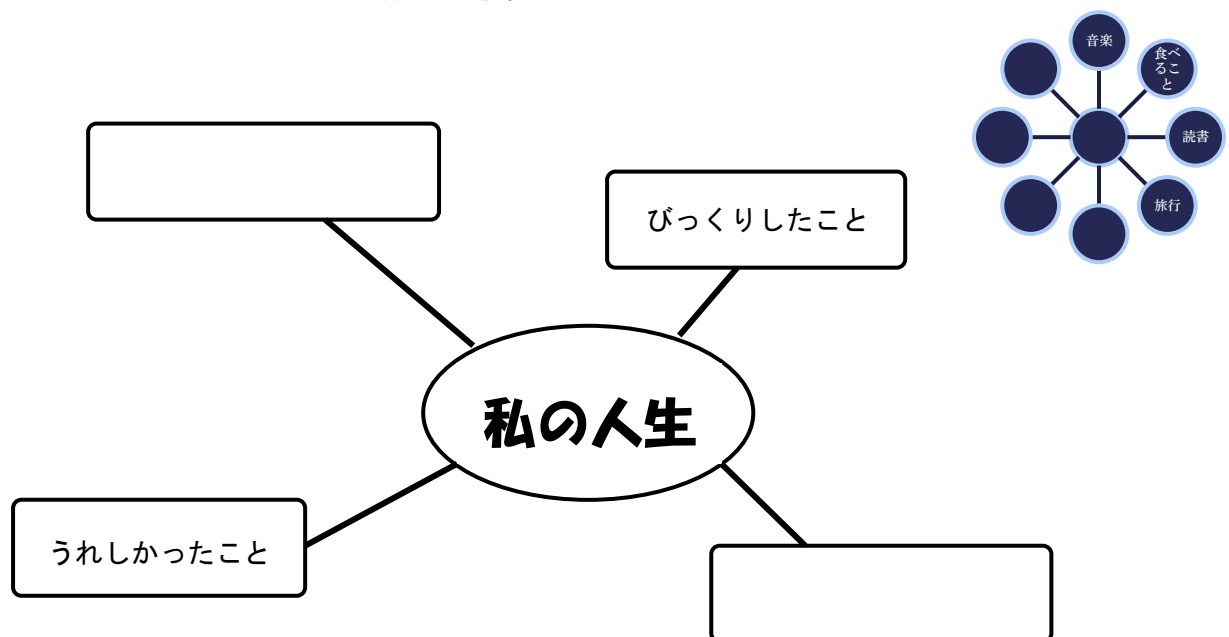
地域の日本語教室とは、多様な背景を持つ学習者とボランティアによって作り上げられる場であり、同時に、参加者全員の協働によって成立する場です。そのためには、参加者が互いの強みと弱みを知り、協力できる体制を作っていく必要があります。もちろん、自分自身の強みと弱みを知ることも大切です。日本語教室は日本語を教えることのみによって成り立つ場ではありません。自分自身そして仲間の強みと弱みを理解することで、よりよい教室運営が可能になります。

そこで、第1回目は、はじめの一步として今の自分を知り、さらにともに学ぶ仲間について知ることを目的とします。

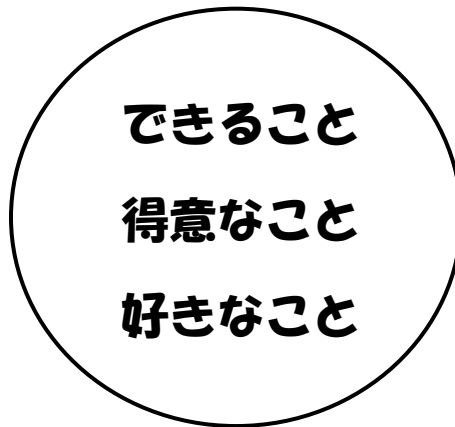
活動1 自分について振り返って考えよう

1) あなたはどんな人ですか？日本語教室では自分ができることをし、できないことは周りの人に協力してもらう必要がありますが、そのためにも自分自身について理解しておくことは大切です。ここでは、自分自身について理解を深めるために、今の自分に至るまでの道のりを振り返ってみたいと思います。

思いつくことをコンセプトマップ（「概念図」）で表してみましょう。頭に浮かんだことを、関係のあることばと線や矢印で結びつけていきます。コンセプトマップは、箇条書きで順番に書いていくのとは違い、ことばとことばを関連づけながら、自由に書き足すことができます。また、関係性が視覚化されるので、記憶にも残りやすくなります。



2) 次に、今の自分を見つめてみたいと思います。「できること、得意なこと、好きなこと」、反対に、「できないこと、苦手なこと、嫌いなこと」、どんなことがありますか。

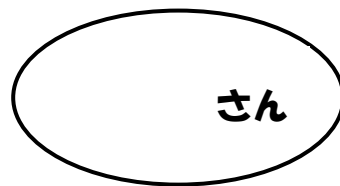
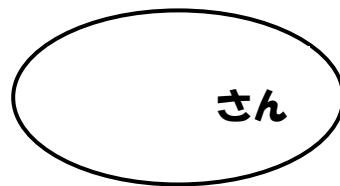


3) 上に書いた「できないこと、苦手なこと、嫌いなこと」を、あなたの代わりにやってくれる人が身近にいますか。思いついた人の名前を上の方の図に書き込んでください。

活動2

仲間について知ろう

1) 自分の人生や自分自身について振り返ったことを同じグループの人に話してください。また、仲間がどんな人か聞いてください。



□■ テーマ1のまとめ ■□

何かをするとき、1人で取り組むのは大変な苦勞を伴います。相談相手や一緒にしてくれる人がいれば、気持ちも楽だし、1人では浮かばなかったアイデアが生まれたりもします。人と人がつながるということは、個人的にご利益があるだけではありません。社会学の分野では、人と人とのつながりを価値のある財産、あるいは資源と捉え、地域や会社などでの社会的なつながりが希薄化している現代において、重要な要素であると指摘しています。

日本語学習支援を行っている教室にも、たくさんの方が存在しています。自分ではできないときや、支援に行き詰ったときには、ぜひ周りの人に助けを求めてください。きっと道が開けます。また、なにも問題がないときでも、教室のみんなで教室のイベントや運営に関わるようにしましょう。さまざまなアイデアが出ることにより、教室がこれまでとは違う進化を遂げるかもしれません。

この教材を支える考え方 その1

私たちが生きる21世紀は、安定し先を見据えることが可能であった時代から、変動の時代に移行したと言われています。日々刻々と私たちが置かれている状況は変化しています。

21世紀を生きるには、安定した時代とは異なる能力が求められます。目の前で次々と展開する状況を判断し、行動し、さらに対応していかなければなりません。これまでのように知識があるということは重視されず、それらの知識を使っていかに判断、行動、対応できるかが重要になってきます。

地域の日本語教室が置かれている状況も、日々変化しているのではないのでしょうか。そこで、この教材は「自分で考えて行動するボランティア」が日本語教室に増えてくれることを願って作りました。「自分で考えて行動するボランティア」とは、言い換えれば「自律的なボランティア」です。自律的とは「自分で考えて、計画を立て、責任をもって行動する」ということです。これは、すべて1人で行うことではなく、周りの人の力を借りながら行動することです。自分だけではできないことも、できる人に参加してもらい、協働すれば、達成することができます。

複数の人が関わりながら行動するとき、異なる価値観や意見をいかに収拾させるかが肝心になります。どのような視点で話をしているのか、何を根拠として意見を言っているのか、といったことがわかれば、大きな混乱を招くことなく問題を解決できます。「なぜ？」という問いを繰り返すことで、意思決定や問題解決をします。これを「クリティカルシンキング」と言います。

クリティカルシンキングは、「批判的思考」と訳されますが、相手を攻撃するというのではなく、相手の意見に耳を傾け、何が述べられているのかを的確に解釈し、次に自分の考えに誤りがないかを振り返るという、自分に向けられた思考法です。

テーマ2からは、クリティカルシンキングに焦点をあてて活動を進めていきます。多様な背景を持つ学習者とボランティアで構成された日本語教室は、まさに21世紀社会の縮図です。多様な要素が複雑に絡み合っています。ぜひクリティカルに思考する能力を身につけ、日本語教室で出会うさまざまな問題を解決していきましょう！

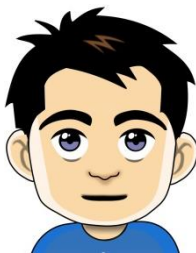
テーマ2 教室活動について考えよう

学習者とボランティアがともに参加する日本語教室での活動は、さまざまな要素によって支えられています。ここでは3つの要素に注目します。まず、人と人とのコミュニケーション、その中でも特に、話し方に焦点を当てます。話し方ひとつで、相手の理解を促しもすれば、妨げもします。コミュニケーションの成立において、話し方は重要な鍵を握っていると言えます。次に、学習者とボランティアの活動をより有意義な時間とするために、学習者が1人でできることとできないことについて考えます。最後は、学習者が話せるように働きかけるにはどうしたらいいかという点について学んでいきます。

今回の目的は、自分がどのように話しているか、すなわち、自分の話し方に自覚的になること、学習者が1人でできることとできないことを判断できるようになること、活動において学習者の発話を促せるようになること、以上の3つです。

活動3 話し方について考えよう

1) ある日本語教室の学習者のタンさんとボランティアの山本さんの会話です。2人の会話をいくつかの観点から検討していきます。



タンさん

私はベトナムから来ました。今27歳です。ベトナムでは機械工として働いていましたが、先に来日した妹から日本は素晴らしいところだと聞き、私も日本に来ることにしました。日本では、研修生として働いています。将来は、ベトナムに帰り、自分で機械製造の会社を作りたいです！

私は定年退職後、日本語学習ボランティアを始めました。現在73歳です。ボランティアを始めたのは、何か楽しいことをしたいと思ったからです。ボランティアを始めてもう10年が経ちました。いろいろな人に会うことができ、充実しています！



山本さん

<http://blog.goo.ne.jp/illust-amembow/e/971625f865367056a9e2692395a124b8>

① 2人の会話を聞いてください。どちらがたくさん話していると感じますか。

山本1：あー ○○（地名） とき、暑かった？ 仕事のほうも大丈夫だった？
 タン1： 大丈夫です

山本2： 大丈夫だった？ あ、遅く寝た？
 タン2：昼…が大丈夫です でも、昨日、遅い寝るからー

山本3： あー この頃、寝るのもねー なかなか暑くて寝られない
 タン3：はいー ×××（聞き取り不可）

山本4：あー あんまり暑いとこでいるとね、熱中症って聞いたことある？
 タン4： ねっちゅー

山本5：熱中症 熱中症 ねっちゅう] しょう 熱中症っていうのはね
 タン5： ねつつ [うしょ

山本6：あなた 漢字が あなた 漢字が好きだからねー
 タン6： 熱中症、わからない

山本7：漢字がねー（漢字を書く）はい ねっちゅうしょう そう
 タン7： ねっちゅうしょう

山本8：熱というのはわかりますか？ ん、あ、たとえば風邪ひい
 タン8： うん 熱、わかる

山本9：たりー たときなんか 体が熱くて よくこうやって日本では座って
 タン9： うん

山本10：こうやって熱があるかどうか みるんだけども ベトナムではどうやって
 タン10：

山本11：みますか？ あー いっしょ？ ここね あー で
 タン11： あー ここも そう

山本12：熱かったら あ 熱がある これが熱
 タン12： んー ねつ？

山本13：うん 熱 ねつ ねつ ねつ ねつ ねつ 熱ね で これ 体の
 タン13： ねちゅ

山本14：中に熱がたまる これ 体が熱くなる 夏 暑いところで 仕事してたら
タン14：

山本15：どんどん体がポーっとなる これは 体の中がもう熱くなって
タン15：ねっ

山本16：ねっ 熱が中に 体の中にたまる 症っていうのは これ 病気のこと
タン16：

山本17： 病気のこと 漢字の意味はね でも病気はふつう病気と言いま
タン17：あー病気

山本18：す 症になったとは 言いません ただ漢字の意味は症ね これ
タン18：はい

山本19：熱でしょ これで熱中症 ねっちゅうしょう
タン19：ねっちゅうしょう

山本20：夏 暑いときに 外歩いてたり 外で何かしてたら 動いてる
タン20：はい

山本21：でしょう？ 運動してたら 体がもうポーっとなって 水を
タン21：うん

山本22：どんどん飲まないと うん で これで日本で夏ね全国でね 1000
タン22：はい

山本23：人以上死ぬんですよ 亡くなってるの 死んでるの 学校で夏暑いときに
タン23：

山本24：みんな生徒が いろいろ運動したり こうなんか してる時とか
タン24：はい

山本25：にね あのー 立ってたら これ 熱中症
タン25：うん ねっちゅう

山本26：
タン26：ねっちゅうしょう

学習者とボランティアのプライバシー保護のため、及び教材化に伴い、加筆・修正をしています。

② 次に、2人の会話を読んでください。どちらがたくさん話していると思いますか。
聞いたときと読んだとき、受けた印象は同じでしょうか。

➡発話量

③ ボランティアが使っていることばに注目してください。1つの意味を表すのに、いくつもの表現を用いていないでしょうか。

➡ことばの調整

④ 学習者が話している最中に、ボランティアが話し始めていないでしょうか。学習者は最後まで話し終えることができていないでしょうか。

➡割り込み

⑤ 学習者が新しい表現やことばを学んだとき、学習者自身が言う時間を十分に、取っているでしょうか。学習者が言葉を発しているときにボランティアが話していないでしょうか。

➡プライベートスピーチ

⑥ 学習者とボランティアの会話のキャッチボールが成立しているでしょうか。

➡会話の成立

なぜプライベートスピーチが起こるの？

みなさんは、新しいことばを聞いたときに、ついぼそぼそと、そのことばを繰り返していた経験はありませんか。相手からの問いに対して聞き返していたわけでもない、このような、自分に向けられた小さい声での発話をプライベートスピーチと言います。

学習者はこうやって新しい表現を繰り返すことで、そのことばを記憶に定着させているのです。学習者が何かぼそぼそ話していたら、ちょっと待ってあげましょう。

活動4

自分の話し方を振り返ってみよう

1) 活動3では5つの観点から話し方を検討してきました。今度は自分の話し方をこれらの観点に基づき見ていきましょう。学習者に許可を取った上で、日本語教室での自分の活動を録音してください。それを聞きながら、以下の点について考えていきます。

① 発話量

② ことばの調整

③ 割り込み

④ プライベートスピーチ

⑤ 会話の成立

⑥ その他の観点

□■ 活動3・4のまとめ ■□

ここでは、これまでの自分の発話行為を振り返りました。自分で自分に気づくことは難しいものですが、このように振り返りをすることは、すなわち自分について立ち止まって考える、内省し問い直す、ということでもあります。これが、この教材のすべての活動に共通する「クリティカルシンキング」です。これからも常に自分自身に向けて、「ちょっと待って、それでいいの？」と問いかけてみましょう。

活動5

学習者が1人でできることと

できないことを考えよう

地域の日本語教室での活動は、週1回か2回、1回の活動時間は1時間から1時間半程度が一般的です。つまり、学習者が日本語ボランティアと一緒に活動できる時間は、多くても週3時間程度、少ない場合は1時間ぐらいしかありません。ともに活動ができる時間が貴重であることは言うまでもありません。この時間を無駄にしないためにも、学習者が1人でできることとできないことを区別することは大切です。

1) 学習者が以下のような目的で、あなたが参加している日本語教室にやってきました。この学習者とどのような活動をしますか。どんな活動でもいいので、グループで考えてください。

工場で働くAさんは国に帰ったら、日系企業で働くつもりです。JLPT N2以上を持っていると、給与が上がるので、検定対策の問題集を勉強するために日本語教室に来ました。

学習者Aさん

Bさんは主婦で、幼稚園に通う5歳の息子がいます。日常会話が少しできますが、幼稚園から届くお便りは全然理解できません。お便りを理解できるようになるために来ました。

学習者Bさん

学習者Cさん

Cさんは日本の映画やドラマが大好きです。いつもは字幕付きをダウンロードして楽しんでいます。字幕なしでも楽しめるようになりたいと思い、日本語教室に来ました。

学習者Dさん

来日したばかりのDさんは会話が苦手です。聞くことは少しできますが、話すことはまだまだです。毎日の生活で日本語を話す機会はあまり多くないですが、ぺらぺら話せるようになりたいと思い、日本語教室に来ました。

活動

2) グループで話し合っ出てきた「活動」を「学習者が1人でできること」と「学習者が1人でできないこと、もしくは1人でするのは難しいこと」に分けて、その理由も考えてください。

1人でできること & その理由

1人でできないこと & その理由

活動5 を支える考え方：自律学習

『新版日本語教育辞典』によると、自律学習とは「学習者が自分で自分の学習の理由あるいは目的と内容、方法に関して選択を行い、その選択に基づいた計画を実行し、結果を評価すること」(p. 773)と解説されています。つまり、自律学習は、学習者自身が自ら管理しながら行う学習のことです。

だからといって、学習に関わるすべてを独力でやらなければならないということではありません。「自立」ではなく、「自律」なのです。自分にできないことやわからないことがあれば、他の人の力を借りることも、問題解決のための1つの方法です。学習を達成するために、さまざまなやり方の中から自分に合った方法を用い、さらにその結果を自分なりに評価する、この一連の作業を主体的に進めていくことが自律学習なのです。

近年、学校を卒業した後も生涯を通して継続的に学んでいく「生涯学習」が盛んです。ここでも自律学習が必要となってきます。社会や経済の変化に対応するため、絶えず新しい知識や技術を学んだり、社会の成熟化に伴い、社会に貢献したり、生きがいを見出したりする中で、学習者だけでなく、ボランティア自身も自律学習という考え方を活かすことができます。

【読書案内】

ノールズ, M. S. (2005) 『学習者と教育者のための自己主導型学習ガイド』
明石書店

活動5のまとめ

今回は、学習者の自律学習のためにボランティアは何ができるのか、日本語学習ボランティアの役割を考えました。何から何までボランティアが決めて学習を進めることは、時として学習者のためにならない、ということを念頭に活動内容の見直しを図りました。

もちろん、すべての学習者が理想的に自律学習を進められるわけではありません。しかし、そのような場合でも、学習者が何かの理由で日本語教室に通えなくなったときには学習者が1人で日本語の学習が続けられるよう、導いてあげることも大切です。

学習者がまだ自律性を発揮できていないと思えば、その自律性を発揮させるためにも、学習者が1人でできることは1人でしてもらいましょう。最初は十分にサポートして、それから少しずつ手を離していきましょう。

活動6 アクティブラーニングに挑戦しよう

活動5で学習者の自律性を促すために大切なことを考えました。ここでも学習者の自律性に焦点を当てます。せっかく学習者が1人でできることとできないことを考えて計画しても、教室での活動でボランティアばかりが話してしまっただけでは学習者の自律性は促されません。そこで、ここでは、学習者が能動的に学ぶことを意味するアクティブラーニングについて考えていきましょう。

また、これまでは学習者とボランティアが1対1で活動することが多かったかもしれませんが、複数の学習者がいるグループ活動など、活動形態が多様化してきています。複数のメンバーでの活動においても、学習者が能動的に学べるようサポートしていくにはどうしたらいいかという点も合わせて考えてみましょう。

1) アクティブラーニングを取り入れた活動について考えていきます。以下の手順に沿って進めていきましょう。

① はじめに2種類の活動を見学してもらいます。この2つはどんな点が違っているでしょうか。また、その違いによって学習者に与える影響はどう変わってくるのでしょうか。

【1つ目の活動】

➡受動、教師主導

【2つ目の活動】

➡能動、アクティブラーニング

【2つの活動を比較して】

アクティブラーニングって何？

「教える」というと、従来の学校のような、教師が一方的に話すシーンを多くの人が思い浮かべてしまいがちですが、それでは学習者が自律性を発揮することはできません。

そこで取り入れたいのが「アクティブラーニング」です。アクティブな学習とは、動いたり身体を使ったりするという意味ではありません。学習者が積極的に書いたり話したりすること、それと同時に、物事を批判的に捉えたり新しく考え出したり、さらに問題解決を図ったりするなど、さまざまな能動的な学習を意味します。

ボランティア主導とならない活動のあり方を探ってみましょう。

ファシリテーターって何？

「ファシリテーター」は、近年注目を集めていることばです。「容易にする、促進する」という意味を持つ“facilitate”に、人を表す“er”が付いて“facilitator”ということばができました。これは、複数のメンバーで活動する場合に、全員が活動に参加し、ともに学び合えるように、働きかけをしていく人のことです。

② ①で見た2つの活動のうち、1つ目が教師主導の活動で、2つ目がアクティブラーニングの考え方に則った活動でした。学習者が主体的、かつ能動的に学ぶためにも、アクティブラーニングを念頭に置いて、活動を考えることが大切です。

では、実際に体験してみましょう。グループを作り、自分の好きなことや得意なことをグループのメンバーに教える活動を行います。1人の持ち時間は5分です。どんなトピックもかまいません。まずはあなたが好きなことを他のメンバーも好きになるような活動を考えてください。その際、アクティブラーニングを忘れないでください。

私の活動内容メモ

③ 1人ずつ自分が考えた内容で活動をやってみましょう。時間は5分です。この後、振り返りをしますので、自分がどのように話したか、それに対してグループのメンバーはどのように反応をしたか、そこでどのようなことが起きていたか等を、頭の片隅に置いておいてください。他の人が行ったときも同様に記憶に留めておいてください。

私	さん
さん	さん

④ 再度自分が好きなことを教えるという活動に挑戦します。ここまでのことを踏まえ、どのように変更したらいいでしょうか。

⑤ 再挑戦はいかがでしたか。うまくいった点、うまくいかなかった点等を、自分で振り返ってください。

□■ 活動6のまとめ ■□

ここでは、アクティブラーニングという考え方にに基づき、学習者が主体的に学ぶためにはどうしたらいいかということを考えました。また、そうした活動におけるボランティアの役割としてファシリテーターという役割があることも学びました。学習者が能動的に参加できるアクティブラーニングに挑戦できたでしょうか。そのような活動を促すファシリテーターとしてのボランティアの役割の重要性を実感できたでしょうか。

「教えるとは説明、解説をすること」というイメージにとらわれず、今後も「学習者が主体的に学ぶこと」を可能にする活動を心がけてください。そして、支援者や脇役として、学習者の力を最大限に引き出してあげることが目標に、次の実習に臨みましょう。

テーマ3 自分の活動を改善しよう

テーマ2では、日本語教室での活動に関わるさまざまな要素について考えてきました。今回は、みなさんが普段参加している日本語教室での活動を振り返ってみましょう。これまでの内容で、みなさんはどんな点に関心を持ったでしょうか。自分の活動の改善したい点はどんなところでしょうか。

したがって、今回の目的は、みなさんが普段の自分の活動を振り返り、問題を発見して改善のためのヒントを得ることです。

活動7 自分の活動を振り返ろう

1) 日本語教室での自分の活動で悩んでいること、もっと改善したほうがいいと感じることは、どんなことですか。自分の問題点とその解決策を考えていきましょう。最後にここで考えたことをポスターにまとめて発表をします。

① みなさんが悩んでいることや改善したほうがいいと感じることはどんなことですか。

例) ・学習者があまり話してくれない。

・活動の中心は雑談だが、なかなか話が続かない。

② ①で挙げたことはどうして改善したほうがいいと思いますか。①が問題である理由を思いつく限り挙げてください。

- 例)・雑談の中で学習者が新しいことばを学ぶことができると思うが、話題がなければ新しいことを学べないから。
- ・話題が見つからないと、何をしたいかわからないから。

③ ①の問題が生じている原因は何ですか。思いつく限り挙げてください。

- 例) A. 1つの話題をうまく発展させることができない。
- B. 自分が持っている話題が少ない。

④ ③で挙げた問題の原因を解決するために、どんなことができますか。

例) A. 1つの話題をうまく発展させることができない。

- ・ 1つの話題でいろいろな話が出てくるので、それを忘れないようにコンセプトマップにしておく。そうすることで、後からその話に戻ることもできる。
- ・ ボランティアばかりが質問するのではなく、学習者が質問するようにする。

2) ①から④まで考えてきたことを発表し、自分とは違う視点からのコメントをもらってください。

3) 発表の振り返りをしましょう。

□■ テーマ3のまとめ ■□

今回は、自分が参加する日本語教室での活動の改善を目的として、実践の振り返りを行いました。今までやってきたクリティカルシンキングが、みなさんも実感できたのではないのでしょうか。

今の自分の活動から問題点を把握し、その原因をあぶり出し、そして解決方法を探求する、このような振り返りは、自分自身を客観的に捉えようとする態度に支えられています。そして、いつもの自分の視点からだけではなく、さまざまな視点からその問題点を検討する、言い換えれば、多角的な視点から捉えようとする態度も必要です。ただ1人で行うには困難が伴います。ぜひ同じ日本語教室のメンバーやこの養成講座で新たに出会ったメンバーと協働しながら、チャレンジしてみてください。

テーマ4 場作りについて考えよう

これまで自分自身の話し方というミクロなレベルから、1人の学習者の教室活動、複数の学習者がいるグループ活動へと、対象となる範囲を少しずつ広げてきました。今回は、日本語教室という場について考えてみたいと思います。場の作り方次第で、活動が円滑に進んだり、メンバー間の交流がしやすくなったりします。

そこで、自分が参加している日本語教室の場をよりよくするための糸口を得ることを今回の目的とします。

活動8 理想的な日本語教室を考えてみよう

1) はじめに、自分が理想とする日本語教室について考えてみたいと思います。もし潤沢な資金があった場合、みなさんはどんな日本語教室を作りたいですか。そして、それはどうしてですか。理由もあわせて考えてください。

① グループで理想とする日本語教室について話し合い、図を描いてください。

② 先の図に描いた理想の日本語教室で大切なところはどこですか。また、それはどうしてですか。

2) 自分たちが考えた理想的な日本語教室と他のグループが考えた教室を踏まえ、日本語教室に大切なことは何か考えてください。

活動8を支える考え方：アフォーダンス

下の絵を見てください。どちらもドアノブです。目の前に、全く同じドアがあったとしたら、みなさんはどちらのドアノブに手を伸ばしますか。それはどうしてですか。

A)



B)



A) のドアノブを選んだ人は、取っ手がつかみやすいからかもしれませんし、B) のドアノブを選んだ人は、よく目にする形だからかもしれません。ドアを開けるという行為ひとつとっても、実は私たちの行動は、私たちの意志だけで決まるわけではありません。ドアノブのように、環境が私たちの行為を引き出すこともあるのです。このような環境側からの働きかけを、アフォーダンスと言います。

この考え方を日本語教室での活動に応用するとすれば、例えば、学習者が手に取りやすい場所に本棚を置いたり、学習しているペアの邪魔にならずに教室を移動できるよう机を配置したりする、などさまざまなことに使えます。

【読書案内】

佐々木正人（2008）『アフォーダンス入門』講談社学術文庫

ノーマン, D. A. (1990) 野島久雄（訳）『誰のためのデザイン？増補・改訂版－認知科学者のデザイン原論』新曜社認知科学選書

3) 続いて、みなさんが参加している日本語教室について考えていきたいと思います。
特に、自分の教室が抱える問題について考えていきます。

① 自分の教室が抱える問題にはどのようなものがありますか。問題点を考えてください。
特に自分が重要だと思うものを挙げてください。

例) ・学習者からの欠席連絡がない。
・せっかく買い集めた教材を使う人が少ない。

② ①で挙げた問題点が問題であるのはどうしてですか。思いつく限り挙げてください。

例) ・学習者が来ないと、ボランティアのやる気が低下してしまうから。
・学習者から連絡がないと、ボランティアは待ちぼうけになるから。

③ ①の問題が生じている原因は何ですか。思いつく限り挙げてください。

例) A. 学習者がボランティアの連絡先を知らない。

B. 学習者に、休む場合は連絡をするよう、伝えていない。

④ ③で挙げた問題の原因を解決するために、どんなことができますか。

例) A. 学習者がボランティアの連絡先を知らない。

- ・学習者とボランティアのペアが決まったときに、連絡先を交換する。
- ・学習者が日本語教室で使っているノートに連絡先をメモしてもらう。
- ・ボランティアと連絡が取れなかったときのために、他のメンバーの連絡先を伝えておく。

4) ①から④まで考えてきたことをグループのメンバーに話し、自分とは違う視点からのコメントをもらってください。

□■ テーマ4のまとめ ■□

今回は、まず自分が普段参加している活動より少し範囲を広げ、日本語教室という場について考えてきました。場はさまざまな要因によって作り上げられています。ちょっとしたことで、活動しやすくなることもありますので、教室の活動がスムーズになる工夫をぜひ考えてみてください。

それから、自分の実践の改善に向けた取り組みも行いました。実践を改善しようとするとき、どんなふうに考えていったらいいか、ヒントを得ることができたでしょうか。先を急ぐのではなく、状況を見極め、1つずつ丁寧に考えていくことが大切です。

テーマ 5 これからの私を想像しよう

これまで、自分で内省を深めたり、グループのメンバーと話し合ったりしました。いかがでしたか。締めくくりとなる今回は、この教材を通した自分の取り組みを改めて内省することで、次の活動へとつなげていくことを目的とします。

活動 9 これまでを振り返り、 これからについて考えてみよう

1) 自分自身で内省を深めます。

① これまでの活動を踏まえて、どのような点がどう変化しましたか。変化した点を、できる限りたくさん挙げてください。

② ①で振り返ったことを他のメンバーと共有してください。他のメンバーの振り返りはきっと自分の内省を深める手がかりになるでしょう。

③ ①の自分自身の振り返りと、②の他のメンバーの振り返りを踏まえ、今度は、これからの自分に目を向けてみましょう。これからの人生で挑戦したいことやボランティアとしてやってみたいことを考えてください。

2) これまでの振り返りとこれからの自分について全体に向けて発表してください。

この教材を支える考え方 その2

学習ということばを聞いたとき、どんなことをイメージしますか。多くの場合、ある個人が教科書などに書かれている知識を頭に入れたり、技術などを習得したりすることが浮かんでくるでしょうか。言語教育においても、学習とは、語彙や文法などの学習する対象が事前に存在し、それを学習者個人が習得することという考え方があります。

一方、学習について考えるとき、学習者個人だけではなく、学習者に関わる人々や道具など、学習者を取り巻く環境、及びそれらとの関係を視野に入れる捉え方があります。この考え方における学習とは、学習者個人の頭の中で起こることではなく、学習者が置かれた文脈との関わりの中で起こることです。この教材は、こちらの考え方を取り入れています。

関わりの中で学びが起こるということは、通常考えられている、教師と学習者の「知識を持つもの」と「知識を持たないもの」という権力関係は存在しなくなります。教師だけが唯一の正しい答えを持っているのではなく、教師も学習者とともに知識を追求する存在となり、教師の役割は学習者が探求できるような環境を整え、学習者が目標へと向かっていくための媒介になることです。

この考え方に基づいて日本語教室を考えると、次のことが考えられます。

- ◇ボランティアは日本や日本語のすべてを知っているわけではないので、学習者が必要とすることについて学習者とともに学ぶ。
- ◇周りの人と関わることにより学習が進むと考えるなら、ボランティアは学習者が教室に関わる多くの人と交流できるよう配慮する。
- ◇学習者の目に映るすべてのことも学習に影響を与えると考えると、教室を学習者が使いやすく模様替えし、きれいにしなくてはいけない。
- ◇ボランティアとしての成長を望むなら、学習者との関わりを大切にすることはもちろんだが、他のボランティアとも積極的につながりを持つようにする。

ある事象をどのように捉えるかで、私たちの行動は大きく変わってきます。この教材では、学習を学習者が置かれた文脈も含めたものとして捉える見方に基づいて活動を進めてきました。これを機会に、改めて自分の周りで起きている学習を見つめ直してみてください。

参考文献

- 青木直子（2005）「自律学習」日本語教育学会（編）『新版日本語教育辞典』大修館
安藤史江（2001）『組織学習と組織内地図』白桃書房
楠見孝・道田泰司（2015）『批判的思考—21世紀を行きぬくりテラシーの基盤』新曜
社
楠見孝・道田泰司（2016）『批判的思考と市民リテラシー』誠信書房
グリフィン, P. 他（2014）三宅なほみ（監訳）『21世紀型スキル—学びと評価の新たな
なかたち』北大路書房
佐々木正人（2008）『アフォーダンス入門』講談社学術文庫
高尾隆（2015）「学ぶと創造の場としての吹奏楽部」青木利夫・柿内真紀・関哲子（編
著）『生活世界に織り込まれた発達文化—人間形成の全体史への道』東信堂
バーデルスキー, M.（2001）「プライベート・スピーチ:米国小学2年生の日本語イマー
ジョン授業における第二言語習得」『第二言語としての日本語の習得研究』4,
39-61.
溝上慎一（2014）『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂
三田地真実（2013）中野民夫（監修）『ファシリテーター行動指南書—意味ある場づくりの
ために』ナカニシヤ出版

文部科学省（2006）「平成18年度版 文部科学白書」【アクセス日 2016年9月20日】
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab200601/index.htm

『日本語ボランティアのためのパワーアップ BOOK

—問題解決能力とクラス形式の活動方法—

◆作成メンバー（五十音順）：

井畑眞理子（にほんごひろば岡本 日本語学習ボランティア）

大河内瞳（立命館大学 嘱託講師）

岡田裕子（桃山学院大学 非常勤講師）

尾形文（神戸松蔭女子学院大学 非常勤講師／兵庫日本語ボランティアネットワーク 会計）

吉良健裕（神戸学生青年センター六甲奨学基金「日本語サロン」 日本語学習ボランティア／兵庫日本語ボランティアネットワーク 副代表）

長尾正康（東灘日本語教室 日本語学習ボランティア／兵庫日本語ボランティアネットワーク 運営委員）

◆委託事業名称：

平成 28 年度文化庁委託事業

「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
—地域日本語教育実践プログラム（A）—

◆事業名称：

日本語ボランティアの新しい能力を育てるためのプログラム

◆委託団体：

兵庫日本語ボランティアネットワーク

◆協力団体：

（公財）兵庫県国際交流協会

（公財）神戸市国際協力交流センター

平成 29 年 3 月 23 日作成

責任者：尾形文